

夏目漱石

記念施設整備プロジェクト vol.2
〜関川夏央氏講演・対談と朗読『こゝろ』〜

第1部
講演

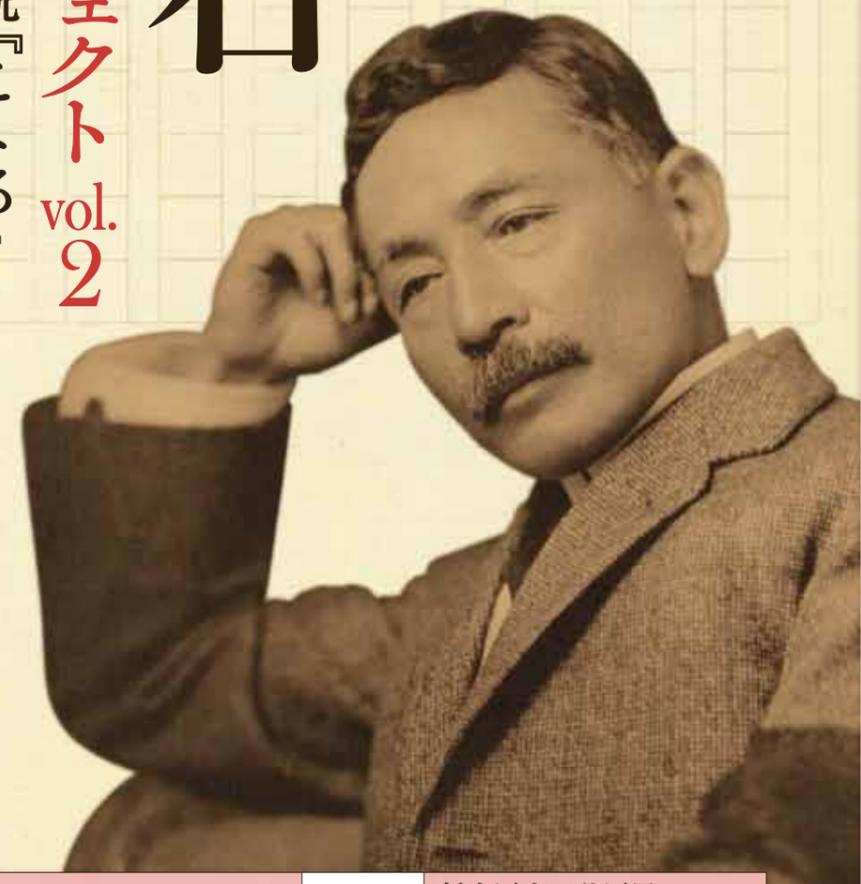
「漱石と明治の文学界」
講師：関川 夏央 (作家)

第2部
朗読

夏目漱石『こゝろ』
朗読：榎木 孝明 (俳優)
演奏：里地帰 (二胡奏者)

第3部
対談

関川 夏央
× 半藤 一利 (作家)



「夏目漱石 記念施設整備プロジェクトVol.2 ～関川夏央氏講演・対談と朗読『こゝろ』～」の 開催にあたって



夏目漱石記念施設整備プロジェクトVol.2～関川夏央氏講演・対談と朗読『こゝろ』～にご来場いただき、誠にありがとうございます。

新宿区では、漱石生誕150周年にあたる平成29年2月の開館に向けて、漱石にとって初の本格的な記念施設となる(仮称)「漱石山房」記念館の整備を進めています。

記念館の整備予定地は、漱石が晩年の9年間を過ごし、多くの名作を執筆した旧居「漱石山房」の跡地です。記念館では、この「漱石山房」を一部再現するほか、常設展示や企画展示、講演会、朗読会など、様々な事業活動で漱石やその文学を発信します。また、漱石の著作などを読みながら、ゆったりとした時間を過ごせる図書室やカフェを設け、漱石文学を軸に、大人から子どもまで多くの人々がくりかえし訪れ、交流できる、活気と賑わいのある記念館を目指してまいります。

記念館の整備にあたっては、多くの皆さまにお力添えをいただきながら取組みを進めたいと考え、「夏目漱石記念施設整備基金」を設置し、昨年7月から寄付の受付を開始いたしました。開館に向けて、引き続き皆さまの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

本日の第1部は、『坊っちゃん』の時代(谷口ジロー共著)でも知られる、作家の関川夏央さんの講演「漱石と明治の文学界」、そして、第2部では、漱石の『こゝろ』100周年にちなみ、俳優の榎木孝明さんに作品の一部を朗読していただきます。第3部では、作家の半藤一利さんにご登場いただき、関川夏央さんと対談していただきます。

最後までごゆっくりお楽しみいただき、漱石が生きた時代と(仮称)「漱石山房」記念館の整備に思いを馳せていただければ幸いです。

新宿区長 中山 弘子

■夏目漱石作品年譜

年	作品名と初出	単行本
明治38年	1月～39年8月『吾輩は猫である』を『ホトギス』に連載	大倉書店・服部書店 「上編」明治38年 「中編」39年 「下編」40年
明治39年	1月『倫敦塔』(『帝国文学』)、1月『カーライル博物館』(『学燈』) 『琴のそら音』(『七人』) 4月『坊っちゃん』(『ホトギス』)	春陽堂『鶉籠』所収/明治40年
明治40年	9月『草枕』(『新小説』)、10月『二百十日』(『中央公論』) 1月『野分』(『ホトギス』)	春陽堂『草舎』所収/明治41年 春陽堂/明治41年
明治41年	6月～10月『虞美人草』を『朝日新聞』に連載。 ※以降の作品はすべて『朝日新聞』に連載。	春陽堂/明治41年・43年
明治42年	『坑夫』(1月～4月)『文鳥』(6月)『夢十夜』(7・8月)『三四郎』(9月～12月) 『永日小品』(1月～3月)	春陽堂/明治43年 春陽堂/明治44年
明治43年	『それから』(6月～10月) 『門』(3月～6月)	春陽堂/大正元年
明治45年	『彼岸過迄』(1月～4月)	大倉書店/大正3年
大正元年	『行人』(12月～2年4月・9月～11月)	岩波書店/大正3年
大正3年	『こゝろ』(4月～8月)	岩波書店/大正4年
大正4年	『硝子戸の中』(1月～2月) 『道草』(6月～9月)	岩波書店/大正4年
大正5年	『明暗』(5月～12月)、漱石の死によって未完。	岩波書店/大正6年

「こゝろ」

初出：朝日新聞
大正3年(1914)4月20日～8月11日

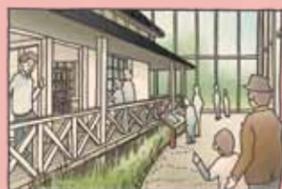
かつて親友を裏切って死に追いやり、恋人を得た“先生”。その不思議な魅力にとりつかれた学生の中から、孤独な明治の知識人の内面を描いた作品。岩波書店から単行本を刊行するにあたり、「上 先生と私」「中 両親と私」「下 先生と遺書」の三章構成に分けられた。

漱石を発信する活気と賑わいのある記念館に漱石文学とともに、ゆったりと時を過ごせる記念館に

- 記念館内に書齋・客間・ベランダ式回廊など「漱石山房」の一部を再現
- 常設展のほか企画展や講座・イベントを開催し、漱石やその文学の世界を紹介
- 漱石に関する本を読みながら、ゆったりと過ごせる図書室やカフェを設置

夏目漱石記念施設整備基金にご協力

区民の皆さんをはじめ、多くの方にお力添えをいただきたく考え、昨年7月に「夏目漱石記念施設整備基金」を設置しました。目標額を2億円として寄付の募集を開始し、1月末現在で約3,400万円のご寄付をいただいています。ご厚志をお寄せいただいた皆さんに心より御礼申し上げます。寄付者のお名前は、新宿区公式ホームページでご紹介しています。引き続き、皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



漱石山房の再現展示イメージの一例

第1部 「漱石と明治の文学界」

講演 関川 夏央 (作家)

昭和24年(1949)新潟県生まれ。上智大学外国語学部中退。昭和59年(1984)、『海峡を越えたホームラン』で第7回講談社ノンフィクション賞、平成10年(1998)、『坊っちゃん』の時代』で第2回手塚治虫文化賞を受賞。平成13年(2001)には、「人間と時代を捉えた幅広い創作活動」により、第4回司馬遼太郎賞を、平成14年(2002)には『昭和が明るかった頃』で第19回講談社エッセイ賞を受賞。近著に、『子規、最後の八年』『昭和三十年代 演習』『夏目さんちの黒いネコ』などがある。



第2部 夏目漱石『こゝろ』

朗読 榎木 孝明 (俳優・水彩画家)

鹿児島県出身。武蔵野美術大学に学び劇団四季を経て、NHK朝の連続テレビ小説『ロマンス』主演でテレビデビュー。得意の殺陣を生かした時代劇から現代劇まで俳優として、映画・テレビ・舞台と幅広く活躍する。またアジアを中心に世界各地を旅し、水彩画を描き続ける画家としても知られる。毎年全国で個展を開催し、著書に画文集、エッセイ集など多数。

——榎木孝明公式ホームページ <http://www.officetaka.co.jp/>



演奏 里地 帰 (二胡の弾き語りシンガーソングライター)

東京都墨田区押上出身。柔らかくも儂い二胡の音色、優しくて芯のある歌声、暖かく切ない旋律。里地帰の奏でる音楽が、あなたにとって「ふる里の地のような帰れる居場所」の1つでありたい。中国の民族楽器・二胡を演奏に取り入れた、二胡弾き語りアーティスト。類を見ない演奏スタイルと、二胡と楽曲とのハーモニーが多くの人々の注目を集め話題を呼んでいる。

——里地帰公式ホームページ <http://里地帰.jp>



第3部 「関川 夏央×半藤 一利」

対談 半藤 一利 (作家)

昭和5年(1930)東京都生まれ。東京大学文学部卒。「週刊文春」「文藝春秋」編集長、専務取締役、同社顧問などを歴任。『日本のいちばん長い日』『日露戦争史』『幕末史』など著書多数。平成5年(1993)『漱石先生ぞな、もし』で第12回新田次郎文学賞、平成22年(2010)『ノモンハンの夏』で第7回山本七平賞、『昭和史』で毎日出版文化賞特別賞をそれぞれ受賞。



協力：一般社団法人 日本映画俳優協会、一般社団法人 日本演出者協会
スタッフ：【演出】和田喜夫 【舞台・音響】榊サンフォニックス 【照明】榊フリーウェイ